

I. 行 事 報 告

「AED」を被災地・道の駅に寄贈

- ①11月9日（水） 道の駅「よつくら港」（福島県いわき市四倉：国道6号）
- ②11月11日（金） 道の駅「さんりく」（岩手県大船渡市三陸町：国道45号）

道建協が全国的に実施している社会貢献活動「AEDを道の駅に寄贈する事業」は平成20年から始められ、昨年で東北6県、各県1箇所でも一回りしましたが、東北は配備されている道の駅が少ないので、今年も継続して実施することにしました。

今年は震災で被災した地域の復興を期す意味で、福島県いわき市の「よつくら港」、岩手県大船渡市「さんりく」を選定しました。

現地での贈呈に先立ち、10月12日、大塚広報委員長が東北地方整備局を訪れ、高橋交通対策課長、赤川道路情報管理官に、AED寄贈について報告し、協会の社会貢献活動について説明、PRを行いました。

道の駅「よつくら港」は、施設の至る所に津波の傷跡が残されたなか、交流館で「仮営業中」でした。開設時からあったAEDは津波で流失、駅舎の修理もこれからという状況下、駅長以下スタッフが再起に向け、日中の営業を再開していました。早稲田支部長から、道の駅を運営するNPO法人よつくらぶ佐藤理事長と白土駅長に、贈呈書及びAED本体が手渡され、その後、メーカー（フクダ電子㈱）担当者により、AEDの仕様の説明、取扱いのデモを行いました。佐藤理事長は「多くの人を訪れるので是非必要だった。とてもありがたい。」と話されていました。

道の駅「さんりく」は、三陸道・大船渡三陸道路の終点部の高台にあり、震災の被災もさほどではなく、平常通りに営業できているというお話でした。大塚広報委員長から駅長である三陸ふるさと振興㈱平田副社長に贈呈書及びAED本体が贈られ、平田駅長からは、「お客さまの安心につながる。普段から使い方をしっかり習得しておきたい」との謝辞がありました。その後の模擬訓練では、駅従業員からいろいろな質問が出され、担当者の説明を受けながら、本番に備え真剣に取り組んでいました。



（道の駅さんりく：贈呈・デモ状況）



お 礼 状

晩秋の候 ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、先日は、当道の駅に AED 設置のため、大塚広報委員長様をはじめ関係の皆様方には何かとお忙しい中ご出席を賜り、寄贈式等を行っていただきましてまことにありがとうございました。

当駅には、これまで AED が設置されておらず、毎日多数のお客様方がおいでになる中で不安な面もございましたが、今後は万が一に備え速やかな救急救命活動が展開できるものと期待される所です。

あの大震災から早くも 8 か月以上が経過した現在、がれきの撤去など徐々には復旧の兆しが見えてきているところもありますが、住宅の再建や主力産業である漁業の復活などまだこれからの部分が多い状況にあります。

こうした中で、当社（駅）も微力ながら地域振興の一端を担って行きたいものと考えておりますので、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

結びに、貴団体のますますのご発展と皆様方のご健勝をご祈念申し上げまして、お礼の挨拶とさせていただきます。まことにありがとうございました。

追伸

先日の寄贈式の様子が新聞（岩手日報）に掲載されましたので、そのコピーも同封いたします。

平成 23 年 11 月 21 日

(社) 日本道路建設業協会
東北支部長 早稲田 高 茂 様

三陸ふるさと振興株式会社
代表取締役 中 井 昭 樹
道の駅「さんりく」
駅 長 平 田 和多利



官民合同安全パトロール

日 時：平成 23 年 11 月 30 日（水）

対象工事：矢引地区舗装工事

（世紀東急工業㈱東北支店 施工）

（酒田河川国道事務所）

伊藤副所長、ほか 5 名

（道建協）

早稲田支部長、宮村安全環境委員長、

上河副委員長、委員 5 名

路上工事における事故防止について、より実践的な対策を講じることを目的に、安全環境委員会が取組んできた「官民合同安全パトロール」が、酒田河川国道事務所のご協力により実施されました。

当日はあいにくの小雨模様でしたが、温海～鶴岡間

